

<杵築市>令和7年度 学校評価の4点セット（自己評価・学校関係者評価）

学校名 杵築市立大内小学校

3学期

実態	学力状況		学習・指導の状況			いじめ・不登校の状況			体力の状況																																	
	各種調査結果	R7年度学力定着状況の結果：12月（全国平均回答率を上回った観点）		○「大内っ子 めざせ！！ 学習マスター」で、学習に向かう基本的な姿勢を示し、学期末には振り返りを行った。 ・「『めあて』や『課題』が何かを考え、自分から進んで学習に取り組む」の肯定的回答は94.0%、A評価は40.0%となり、1学期末より高くなった。 ○「話しかた」の掲示物を作り、理由をつけて話すことや話し合いを深めるための指導に役立てた。			<table border="1"> <tr> <td></td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>いじめ 認知件数</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>いじめ 解消率%</td> <td>64%</td> <td>75%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>不登校数</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不登校 内新規</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不登校 復帰率%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>-</td> </tr> </table> <p>○「いじめ見逃し0」を意識し、いじめ調査を行っている。 ○保護者・関係機関等と連携しながら未然防止や支援を行っている。 【生活指導の喫緊の課題】 ・自他（特に自分）のよさや頑張りに気づいていない児童が複数あり、全体的に自己肯定感が低い。 ・困ったことが起きた時に自分で解決しようとする力が身につけていない。</p>				R5	R6	R7	いじめ 認知件数	11	16	13	いじめ 解消率%	64%	75%	85%	不登校数	2	5	0	不登校 内新規	0	3	0	不登校 復帰率%	0%	50%	-	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>運動愛好度</td> <td>R7全国値以上種目数</td> </tr> <tr> <td>男子</td> <td rowspan="2">平均85%</td> <td>28/48 (小) 昨年25</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>38/48 (小) 昨年41</td> </tr> </table> <p>【体力/運動の喫緊の課題】 握力・長座体前屈の項目が全国平均に達していない児童が多い。</p>			運動愛好度	R7全国値以上種目数	男子	平均85%	28/48 (小) 昨年25	女子
	R5	R6	R7																																							
いじめ 認知件数	11	16	13																																							
いじめ 解消率%	64%	75%	85%																																							
不登校数	2	5	0																																							
不登校 内新規	0	3	0																																							
不登校 復帰率%	0%	50%	-																																							
	運動愛好度	R7全国値以上種目数																																								
男子	平均85%	28/48 (小) 昨年25																																								
女子		38/48 (小) 昨年41																																								
【テストの喫緊の課題】 ・叙述を基に内容を読み取る・理由や事由を挙げながら書く ・既習事項を活用し問題を解決する・筋道を立てて説明する	4年 国語 4/4 算数 4/4 理科 4/4 5年 国語 4/4 算数 4/4 理科 4/4 6年 国語 1/4 算数 4/4 理科 2/4																																									

学校の教育目標	育成を目指す資質・能力	重点目標：めざす児童生徒像			達成指標	資質能力	担当	重点的取組		取組指標（誰が・何を・頻度）		取組評価	達成状況の確認		考察・改善					
		知識技能	思考判断表現	学び人間性				取組状況の確認（根拠）	根拠	評価										
		筋道を立てて考え、伝える力						取組内容		取組状況の確認（根拠）			考察・改善							
大内っ子の育成 ふるさとを愛し、自ら気づき考え、めあてに向かってねばり強く挑戦する	基礎的な力を習得する子	自分の考えを伝える子	見通しをもって取り組む子	何事にも意欲的に取り組み粘り強く挑戦する子の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートで「自分の考えを理由つけて言えた」の肯定的回答を85%以上にする。（2学期末肯定的評価82%）</li> <li>教職員アンケートで「児童は自分の考えを理由をつけて言えた」のA評価を42%以上にする。（2学期末A評価29%）</li> </ul>	思考・判断・表現	学習部（知）	授業改善テーマ	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習部は、学期に3回以上授業改善テーマに沿った提案・改善策を提起し、進捗状況の把握をする。（根拠：職員会議会議録で確認）</li> <li>○担任は1日の授業の中で2回以上《話し合いの場》を設定し、考えをつなぐようにする。（根拠：教職員アンケートA評価を71%以上の指標に対して57%、取り組み状況80%、A評価）</li> <li>○担任は毎時間の授業で児童に《本時に必要な数学的な見方・考え方》を使って表現させる。（根拠：教職員アンケートA評価を50%以上の指標に対して29%、取り組み状況58%、B評価）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「自分の考えを理由をつけて言えた」の肯定的回答94%。達成状況111%（S評価）</li> <li>・教職員アンケート「児童は自分の考えを理由をつけて言えた」のA評価回答29%。達成状況69%（B評価）</li> </ul>	A	話し合いの場は設定できており、自分の考えを理由をつけて言える児童が増えている。しかし、単発な発言になりがちで、友だちの考えを受けて自分の考えを発言することがあまりできていなかった。友だちの考えをしっかりと聞くことや反応することの指導、また、考えをつなぐ発言を引き出すような授業をしていく必要がある。さらに、引き続き《本時に必要な数学的な見方・考え方》は何か、指導書等で教材研究に努めていく						
								その他学力向上の取組	支援の必要な児童への支援の工夫						人間関係づくりプログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活指導部は、学期に3回以上人間関係づくりプログラムについての提案・改善策を提起し、進捗状況の把握をする。（根拠：職員会議録で確認）</li> <li>○担任は、人間関係づくりプログラム等の時間に《自他のよさや頑張りを認め合う取組》を月に2回以上行う。（根拠：教職員アンケートA評価100%の指標に対して100%、取り組み状況100%、A評価）</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート『自分や友だちのよさやがんばりを見つけることができる』のA評価回答69%。達成状況115%（S評価）</li> <li>・教職員アンケート『児童は「自分や友だちのよさやがんばりを見つけることができる」』のA評価回答71%。達成状況71%（B評価）</li> </ul>	A	1年間を通して、大内っ子タイムでの様々な取り組みの際に児童が友だちの良さや頑張りを見つけられる場を設けてきた。そのことにより、自ら良さや頑張りを伝えられる児童が増えたと考えられる。教職員アンケートでは、A評価は71%あったが、肯定的評価は100%である。教職員は、進級を見据えて、児童のより成長した姿を期待したことからA評価の値が伸び悩んだと考えられる。
								縦割班活動・集会（全体・学年部）の充実	体力アップタイム						めあてを意識させた体育授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員が縦割班活動や集会活動の中で友だちのよさやがんばりを認め合う場（話し合いや振り返りの会など）を週に1回以上設定する。（根拠：教職員アンケートA評価100%の指標に対して100%、取り組み状況100%、A評価）</li> <li>○保健部は《体カアップカード》の提案・改善策を提起し、進捗状況の把握を学期に1回以上行う。（根拠：職員会議会議録で確認）</li> <li>○体育主任は月に1回、体カアップタイムを開催する。（根拠：実施回数で確認）</li> <li>○担任は単元毎に《体カアップカード》を2回以上効果的に活用し、めあてを意識させながら指導を行う。（根拠：教職員アンケートA評価100%の指標に対して100%、取り組み状況100%、A評価）</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート『体育の授業や体カアップタイムで苦手なことにもあきらめずに挑戦（チャレンジ）した』のA評価を80%以上にする（2学期末 A評価64.0%）</li> <li>・教職員アンケート『教師は児童の頑張る過程を褒めたり、認めたりする声かけができた』のA評価を100%にする。（2学期末 A評価100%）</li> </ul>	保健・体育（体）	一校一実践
さやこくかしくたくましく	基礎的な技能を習得する子	自ら考えて取り組む子	ねばり強く挑戦する子	自ら考えて取り組む子の育成		学び・人間性	保健・体育（体）	重点的取組		取組指標		評価	考察・改善							
								家庭	スマホ・タブレット等の使い方に留意して、望ましい学習・生活習慣を確立する。	教職員と保護者が協力して、スマホ・タブレット等の使用のきまりを話し合い、それらの実践を記録する（メディアチェックカードの取組）を学期に1回以上行う。（根拠：保護者・児童アンケート）	S		1・2学期と同様にメディアチェックカードの実施により、家庭で決めたきまりを守ろうとする子どもの姿が見られた。家庭からは「約束を意識して守ることができていた」「子どもが何をしているのか知りたい」「親子で学ぶ場がほしい」などの声があった。来年度に向けて、より良い取組を研修部で模索して行く必要がある。							
								地域（学校運営協議会）	環境安全推進部	登校時の安全指導と声かけ運動	学校運営協議会委員・保護者・管理職が登校時の安全指導と声かけ運動を行う（根拠：活動記録）		S	登校時の安全指導と声かけを行った。保護者は3学期は2回（6人）実施。校区内の交通事故は0で、通行する車の注意喚起にもなった。						
		学習支援部	地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援	学校運営協議会委員・住民自治協のメンバーを中心に学期に4回以上学習支援を行う。（根拠：活動記録）	S	読み聞かせを2回行った。3月に地域の方々の指導で麦ふみを体験し、自然の豊かさや、地域の良さを学んだ。														

※ 取組状況評価（ S：100%超 A：80~100% B：80%未満 ）

※ 達成状況評価（ SS→S SA→A AA→A SB→A AB→B BB→B ）